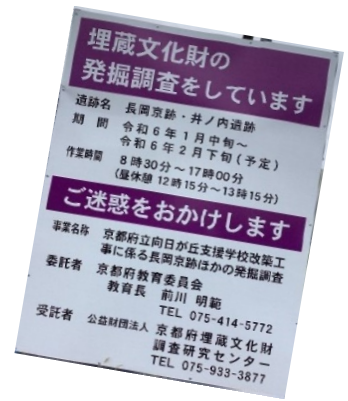




Team New Vision

きゅうこうしゃかいたいげんば まいぞうぶんかざいはつくつちようさ 旧校舍解体現場、埋蔵文化財発掘調査レポ!!(2)



【長岡京について】

今回のレポートでは、まず、私たちの向日が丘支援学校（旧校舍）の場所は、「長岡京」（桓武（かんむ）天皇が784年から794年までの10年間に置いた都）のどあたりの位置にあるのか、について報告します。

長岡京は、条坊（じょうぼう）制と呼ばれる区画割りによって碁盤（ごばん）の目状に整備されました。坊は朱雀大路を中心に右京、左京それぞれに一坊から四坊まであります。

向日が丘支援学校（旧校舍）の場所は、「右京」の二条大路、西四坊大路のあたりにあることがわかっています。今回、発掘調査をしている遺跡は「長岡京跡右京第1286次」といいます。

今回発掘されたのは、

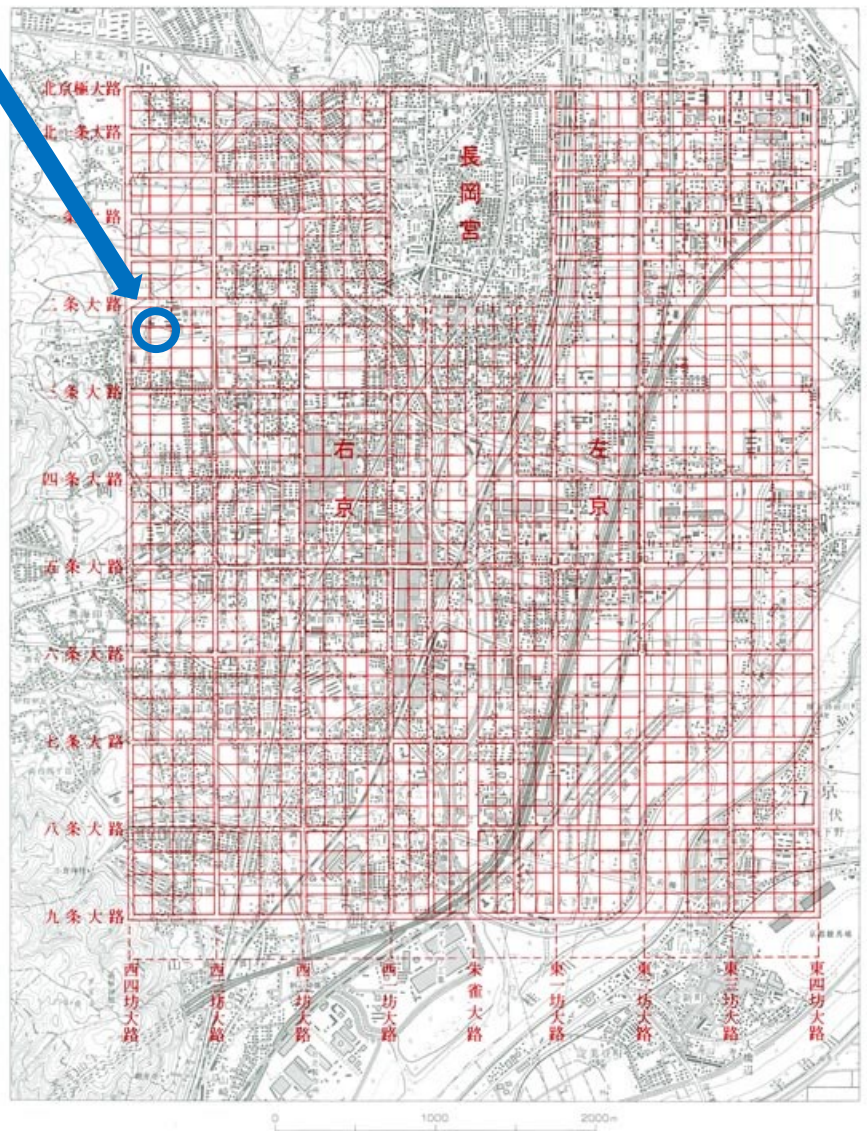
古墳時代の土師器

（はじき）です。

※土師器（はじき）：

古墳時代から平安時代にかけてつくられた赤褐色の素焼きの土器のこと。

土師器は、煮炊きをするお鍋のような役割をしたり、食器として使ったりしていたそうです。古墳時代の人はどんなものを食べていたのでしょうか。



【発掘調査の場所について】

今回は旧校舎の3か所で発掘調査が行われました。

そのなかで「2トレンチ:運動機能室のあたり」で、

先ほどの古墳時代の土師器が発見されたのです!!




※トレンチ:細長い発掘溝(はくつこう)のこと。
その部分の発掘から遺跡全体の状況を探る。



それから、土杭(どこう)も2基確認されたそうです。

※土杭(どこう):人間が土を掘りくぼめてできたと考えられる穴

何のための土杭(どこう)かを想像するとワクワクしますね。

1トレンチ 運動機能室前の中央廊下あたり	2トレンチ 運動機能室のあたり	3トレンチ 体育館とプールの間あたり
	<p>運動機能室</p>  <p>芝生広場</p>	<p>プール</p>  <p>体育館</p>

ココ!土杭の跡が発見されました。



私たちの旧校舎跡地からは、古墳時代、奈良時代のものと思われる土器が発掘されました。はるか昔、人々がそこで暮っていたことを想像すると、親しみさえ感じます。今後が楽しみです。